

自治医科大学医学部の学生の皆様

私は4期生の木村清志です。

この度自治医大の卒業生がその活動状況等を皆様に対して紹介する場をいただきました。トップバッターとして島根県の紹介をさせていただきます。

私は義務年限後も臨床医として島根県で地域医療、総合診療に携わって参りましたが、平成15年度から県の医療対策課で、地域医療における医師確保等の仕事（いわゆるへき地医療支援機構の専任担当者）に従事しております。

島根県は医師が不足しています。

島根県は、面積では47都道府県中18番目ですが、東西に細長く海岸沿いの狭小な平地を除いては、ほとんどが山間地であるとともに、隠岐諸島という離島も有しています。このような地理的条件もあり、長い間医師確保に困難を極めてまいりました。また国立大学の独立行政法人化、初期臨床研修の必修化等もあり、島根県も例に漏れず医師不足にさらに拍車がかかっております。

島根県では新しい取り組みをしています。

島根県では地域医療を確保するため、従来から地域医療支援のための様々な方策を練ってまいりました。平成14年度にはへき地等医療支援機構を設置し、へき地等医療支援会議を発足いたしました。今年度からは従来から施行されていた地域医療支援対策に加えて、安定的な医師の確保を目指して**専門医養成プログラム**を新設し、**しまね地域医療支援センター**を立ち上げました。今後も地域医療の充実に努める所存でございますが、今回はそれらの一部を紹介するとともに、研修病院である島根県立中央病院を紹介いたします。

島根県立中央病院

島根県立中央病院（以下中央病院）は島根県で唯一の県立総合病院です。

平成 11 年 8 月に新築移転し、日本初の電子カルテ・システムを導入して開院しました。県の中央部よりやや東の出雲市にあり、病床数 687 床、診療科は院内標榜も含めて 33 科を有します。医師数は約 130 名、その内 11 名が本年の国家試験合格者であり、新たな初期臨床研修が開始されました。

中央病院の使命は、（１）救命救急センターとして、救急医療の充実、（２）県の基幹的総合病院として、高度・特殊医療の強化、（３）県立病院として、地域医療支援体制の充実です。



中央病院全景

自治医大卒業生は、平成 5 年に設置された地域医療科に所属して、初期研修、後期研修を行います。

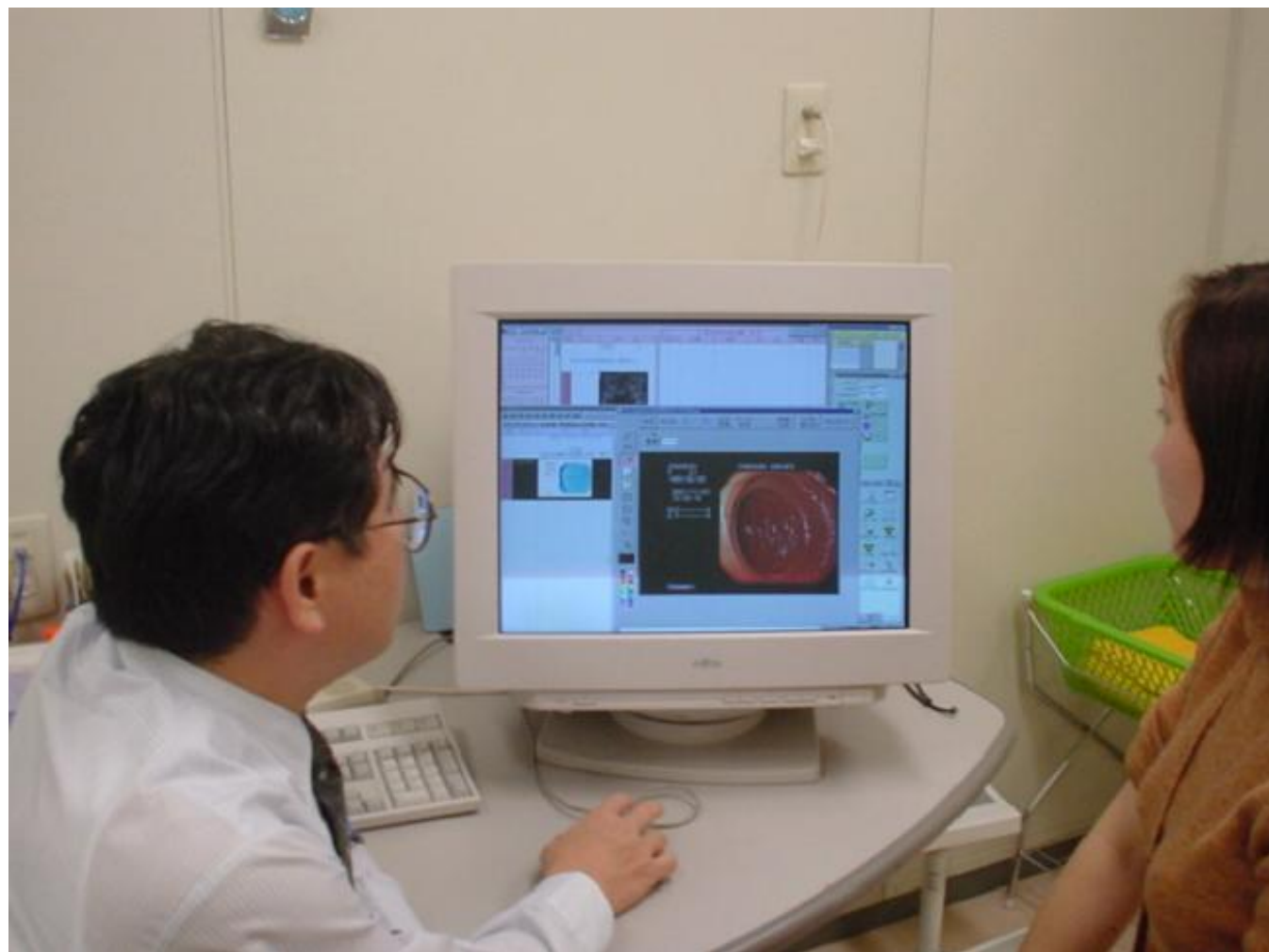
また地域医療機関に派遣されている間も、所属は地域医療科です。義務年限終了後も希望があれば、その身分を継続することが可能です。

また総合診療科が平成 6 年に新設され、平成 9 年からは責任者は自治医大卒業生となり、現在も 2 名の卒業生を中心に 6 名で診療を行っています。

地域医療機関への代診は、しまね地域医療支援センターの医師と総合診療科の医師が中心となって行っています。

IT を利用した地域医療支援としては、**医療ネットしまね**と**隠岐島遠隔医療支援システム**があります。前者についての説明は割愛しますが、後者は**遠隔カンファレンスシステム**と**遠隔放射線画像診**

断支援システムからなっています。遠隔カンファレンスシステムはテレビ電話を使用した症例検討のためのシステムです。遠隔放射線画像診断支援システムは隠岐の病院で撮影した CT、MRI 画像を DICOM 対応により、直接中央病院の放射線科診断室に写し出し、専門医による診断を返送するシステムです。隠岐の 2 つの病院から 1 ヶ月に 400 件程度の画像が伝送され、ほぼ全て当日に読影されています。放射線画像だけでなく、心電図等の検査も含め的確で迅速な診断によって、医療の質が高まるとともに、 unnecessary 患者移送を軽減することにもつながります。



電子加システム

救急患者の支援に関しては前述の隠岐島遠隔医療支援システムと本土側医療機関医師等同乗による離島救急患者緊急搬送があります。離島等からの救急患者は、県の防災ヘリ等により中央病院の屋上ヘリポートに到着します。最後に自治医大の義務年限後の卒業生は中央病院では総合診療科で 2 名勤務しているほかに、外科で 1 名乳腺外科のチーフを任せられています。



屋上ヘリポート

島根県の自治医大卒業生の動向(H16年4月現在)

(単位:人)

	島根県内					県外		計
	県立中央病院	その他の病院	診療所	行政	小計	自治医大関連	その他	
義務年限内	4 (初期研修)	10	2		16	2 (後期研修)		18
義務年限後	3(3)	10(6)	7(3)	1(1)	21(13)	5	12	38

※ 義務年限後の()は県職員

※ 義務年限後も県内医療機関に県職員として派遣

義務年限終了後の県内残留率 $=21/38=55.3\%$

義務年限修了者中の県職員 $=13/38=34.2\%$

自治医大卒業後の勤務予定

卒業

義務年限終

1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
初期研修		地域医療機関			後期研修	地域医療機関		

※国家試験合格後は県職員として採用、県職員として地域医療機関に派遣

※初期研修は県立中央病院

※後期研修は県立中央病院ないし自治医大(含大宮医療センター)

※3年目は地域医療機関の中でも病院勤務

島根県立中央病院における初期臨床研修

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	内科系3ヶ月			救命救急科3ヶ月 (麻酔科1ヶ月)			外科系3ヶ月			内科系3ヶ月		
2年目	精神神経科	産婦人科	小児科3ヶ月			地域医療	地域保健	選択診療科5ヶ月				

※内科系は、下記の6診療科から2診療科を選択する。但し、循環＋消化と内代＋血免の組み合わせは不可。

[循環器科、消化器科、神経内科、呼吸器科、内分泌代謝科、血液免疫科]

※外科系は、外科(腹部・一般外科)を2ヶ月、呼吸器外科、心臓血管外科、脳外科、整形外科の中から1ヶ月
選択する。

島根で働く医師を<呼ぶ>

<専門医養成プログラム>

この春から始めた全国に例のない試みです。専門医(産婦人科、精神科や総合医など)を募集し、大規模病院と中小病院での勤務を組み合わせたプログラムで、医師にとって魅力ある勤務ローテーションとなります。

<赤ひげバンクやドクターバンク>

県外の医師とネットワークをつくり、地域医療を志す医師を呼び込みます。

<広報と働きかけ>

さまざまな広報戦略で島根に来ていただくきっかけを作ります。

島根で働く医師を<育てる>

<自治医科大>

高い意識と能力を身につけた医師を育てるため全都道府県共同で運営しています。

<地域医療奨学金>

将来県内で働く条件で月10万円の奨学金を借りることができます。

<地域医療等研修会の開催>

医学部学生を対象に夏期研修を開催し、地域医療に目を向けてもらいます。

しまね地域 医療支援センター

医師を

<呼ぶ><育てる><助ける>
の各事業を全体的にまとめて
島根の地域医療を進めていきます。

島根で働く医師を<助ける>

■ブロック制■

診療所と病院の医師が交代で勤務しながら地域全体で患者さんを支えます。

■代診医の派遣■

診療所で働く医師が学会や研修会に参加できるように診療を代わります。

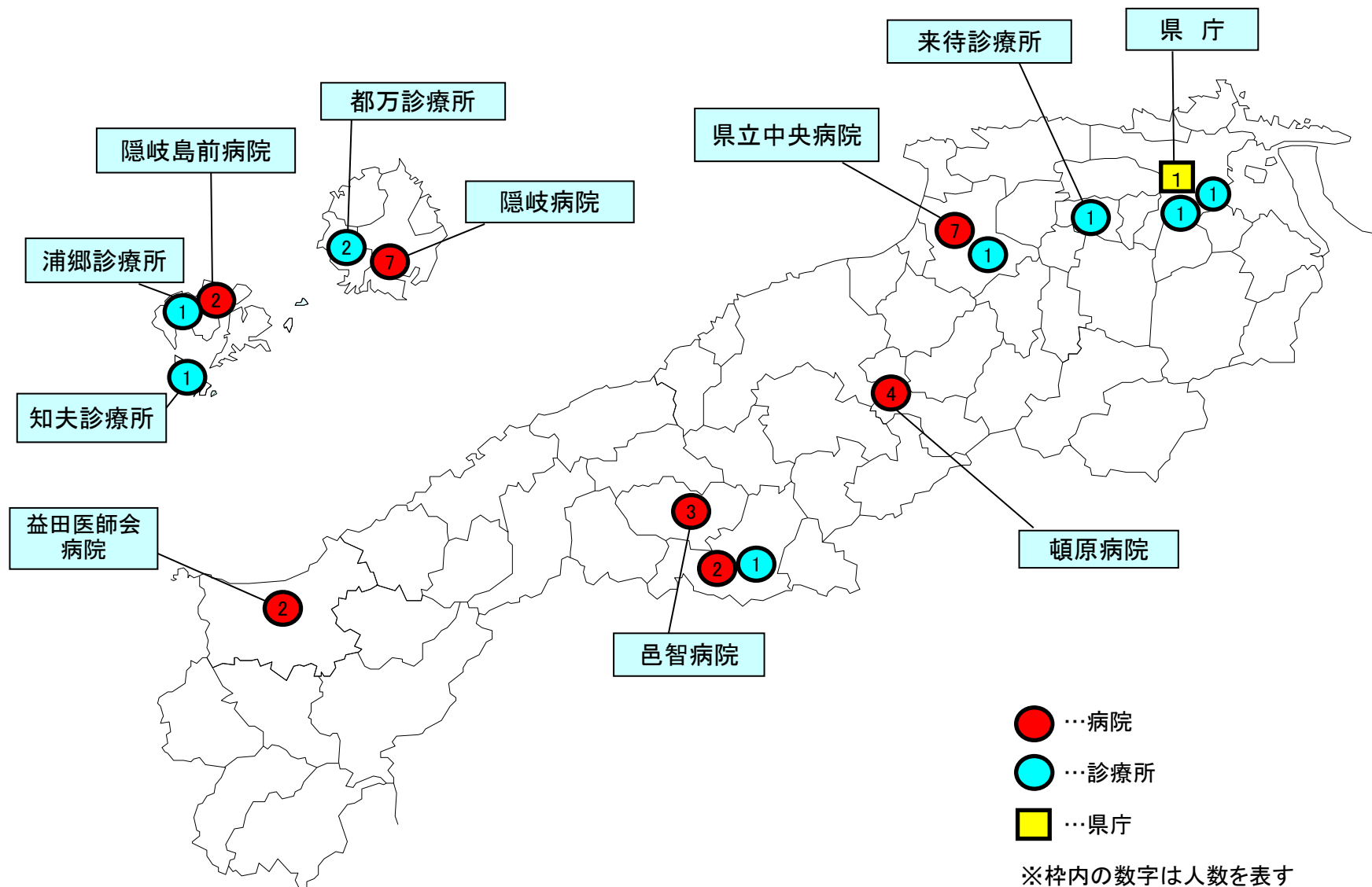
■地域医療拠点病院■

地域で医療対策を総合的に進める病院です。

■ドクターズヘリ(防災ヘリ)■

救急患者を乗せ救命救急センター等に運びます。

自治医大卒業生の島根県内勤務地 H16年4月現在





都万村での地域医療実習にて

